

道南太平洋海域スケトウダラニュース

平成 21 年度 第 2 号 2009 年 12 月 11 日

北海道立栽培水産試験場 調査研究部 TEL : 0143-22-2327 FAX : 0143-22-7605

道南太平洋スケトウダラ資源調査（計量魚探調査）結果

函館水試調査船「金星丸」により行われたスケトウダラ資源調査の結果をお知らせします。

- ・ 調査期間：平成 21 年 11 月 30 日～12 月 3 日
- ・ 調査海域：道南太平洋の水深 100～500mの海域

なお、スケトウダラニュースは PDF ファイルとして栽培水産試験場ホームページからもご覧になれます。ご利用ください（ホームページには 12 月中旬に掲載する予定です）。

<http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/exp/saibai/suketoudara.htm>

- ・ 魚群は渡島から日高までの調査海域全域に広く分布
- ・ 分布水深は 150～400m
- ・ 魚群反応は渡島沖から胆振沖の水深 250～350mが中心
- ・ 魚体は小型個体が多い（とくに渡島側）
- ・ 水温は前年同期よりも低い

1. スケトウダラとみられる魚群は、渡島から日高海域にかけて広い範囲で観察されました。分布水深は 150 から 400mの広い範囲にありました（図 2， 4）
2. その中でも、渡島沖から胆振沖の水深 250～350mに強い反応がみられました。ただし、300 m以深の反応は海底から離れており、海底に着いた反応は 250m付近が中心となっていました（図 3）。
3. 恵山沖および登別沖でトロールによる漁獲物調査を行いました。恵山沖では体長（尾叉長）36～48cm 台、登別沖では同 36～70cm 台のスケトウダラが漁獲されました。なお、恵山沖では 40cm 前後、登別沖では 40cm 台前半の個体が多くなっていましたが、刺し網漁場の沖合で調査を行ったため（水深 300m付近）、登別沖では 50cm を超える大型の個体もかなり混じっていました。
4. 水温は昨年同時期よりも低くなっていました。とくに水深 200～250mでは昨年度を 3～5℃ 下回っていました。
5. 次回の調査は、年明け後の 1 月中旬（第 2～3 週）を予定しています。

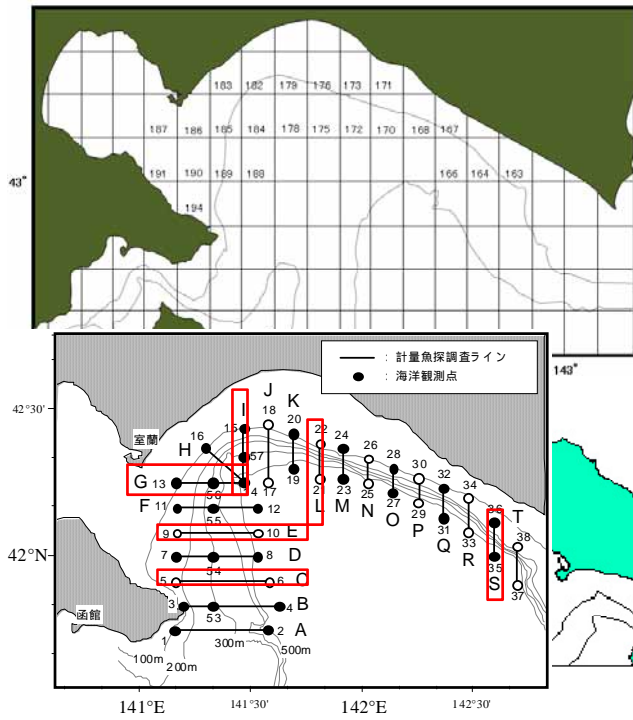


図1 調査海域図(上:沖底海区番号)

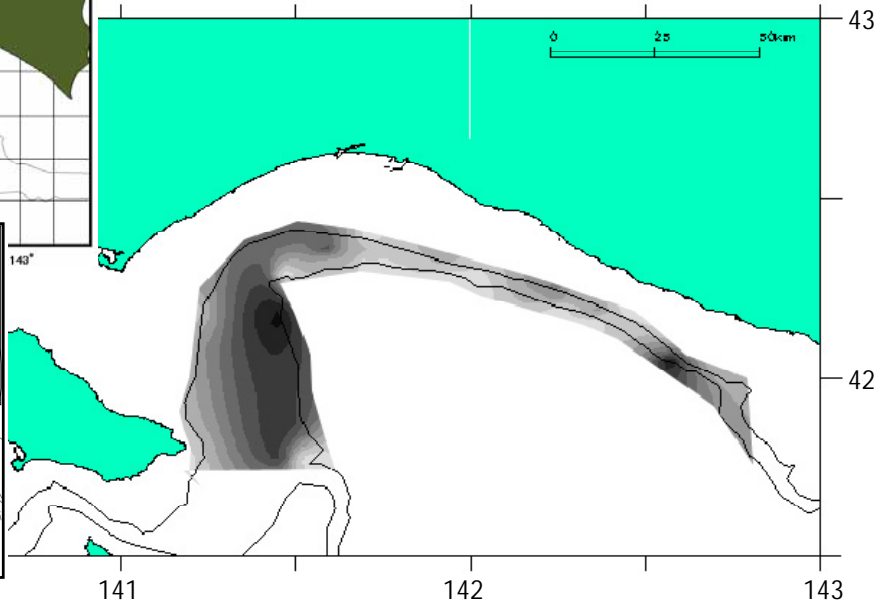


図2 調査海域における魚群の分布

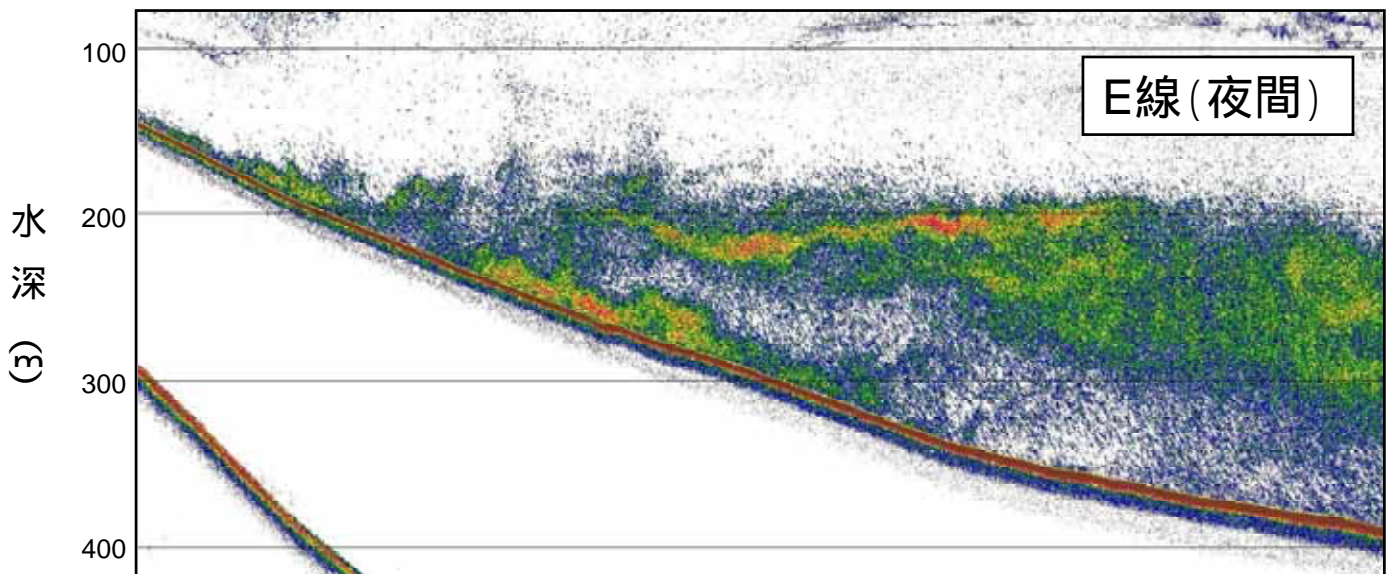
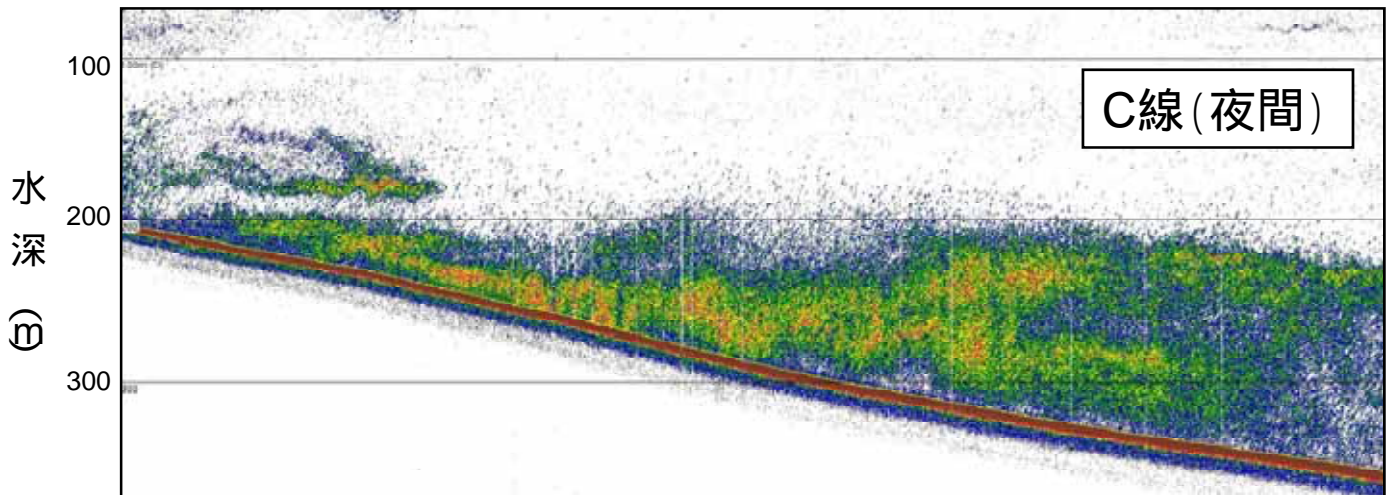


図3 魚群の分布(計量魚探画像)

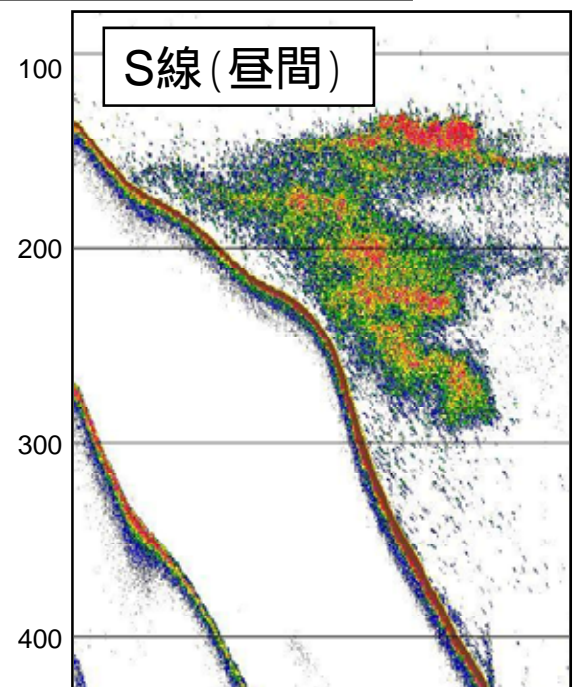
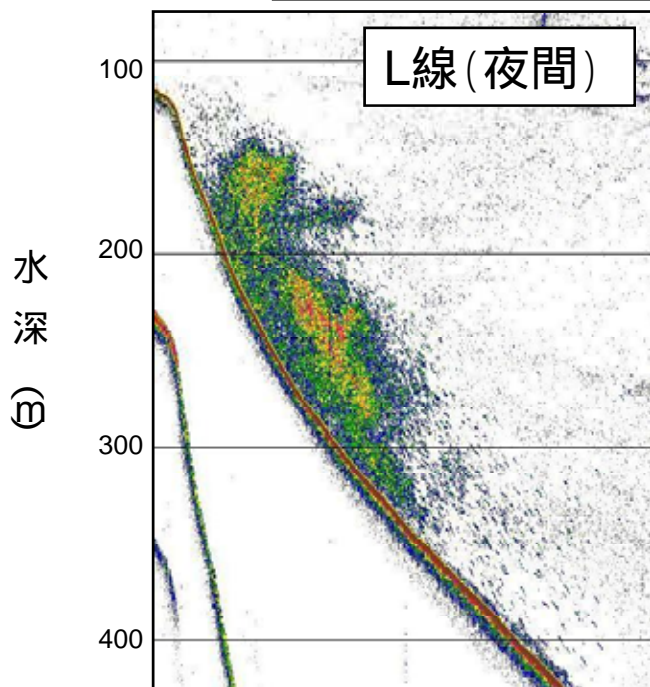
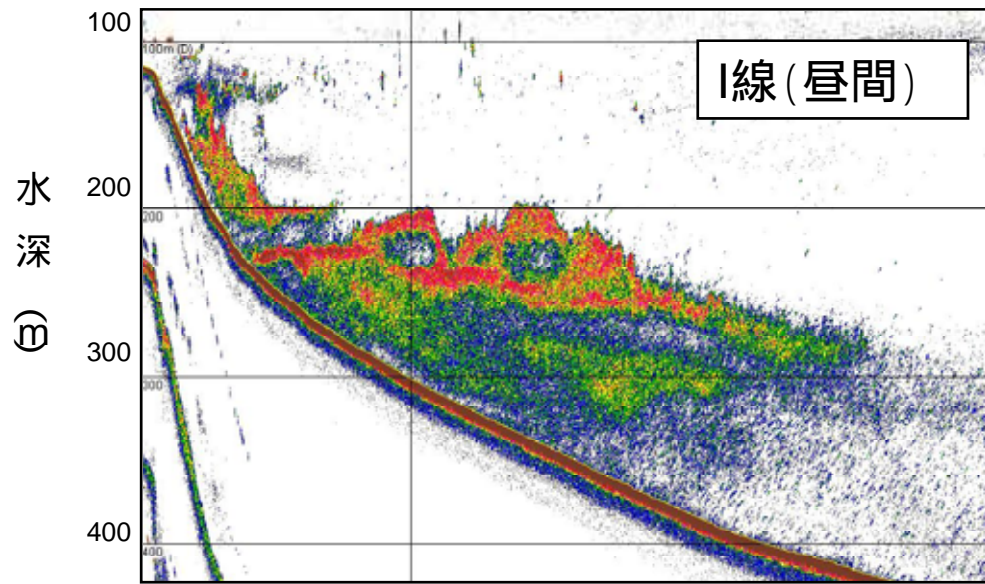
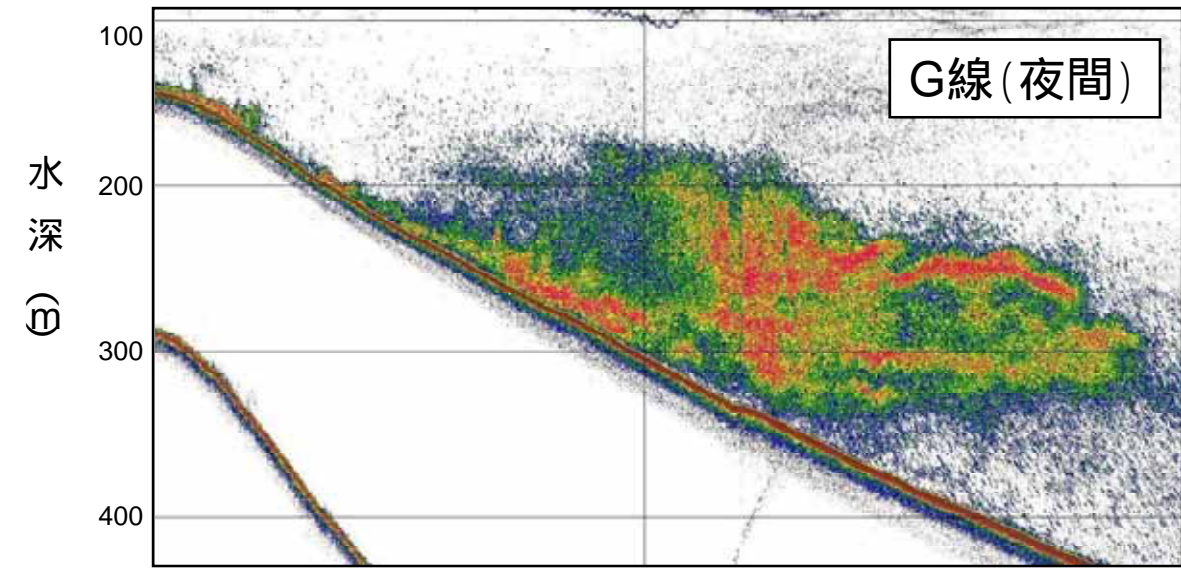


図3 魚群の分布(計量魚探画像)つづき

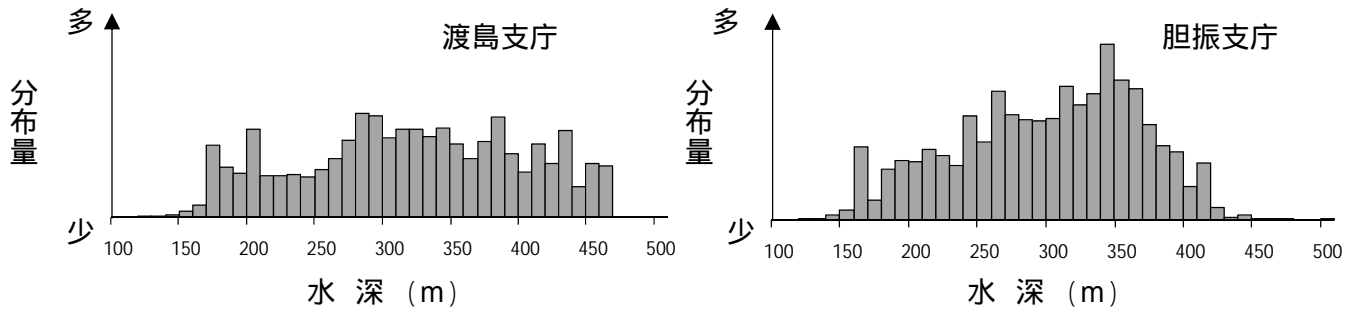


図4 水深別(10m間隔)の分布量

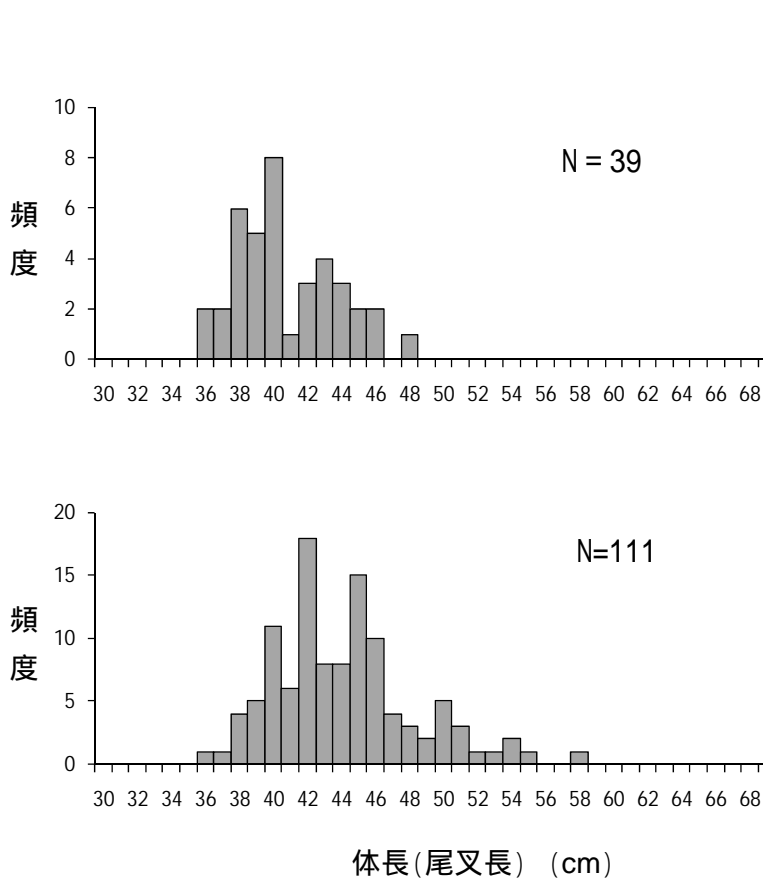


図5 漁獲物の体長組成(上:恵山沖,下:登別沖)
漁獲水深は両地点とも約300m

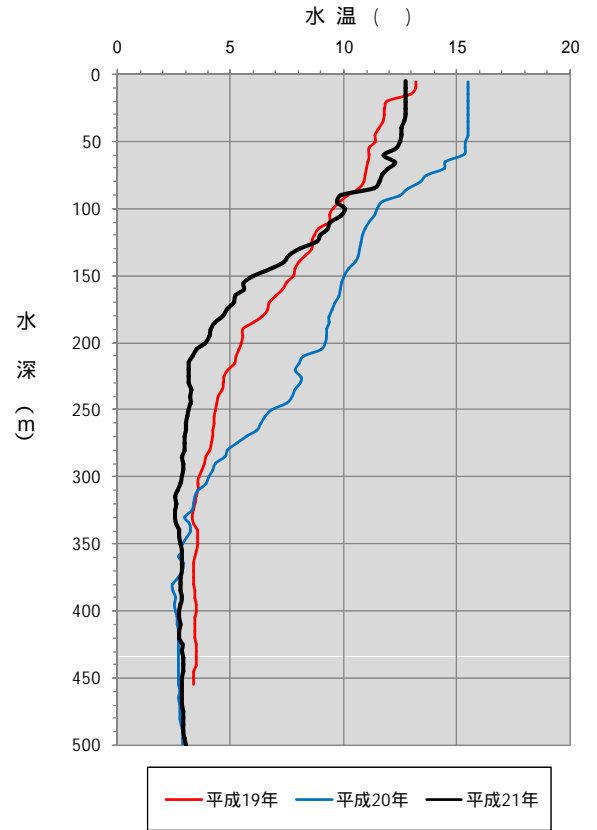


図6 水温の鉛直分布(登別沖)